

# 花巻市葡萄が丘農業研究所の概要

## 目的

農業生産に関する試験研究等を行うことにより、農業者の生産技術の向上及び所得の増大を図り、市民等の生活の安定に役立てるため、葡萄が丘農業研究所を設立しました。

## 沿革

- 平成9年4月、岩手県は農業試験研究機関の整備統合により北上市に農業研究センターを開設したため、岩手県園芸試験場大迫試験地を廃止した。このことに伴い、果樹圃場及び建物を当時の大迫町が引き継ぎ「大迫町立葡萄が丘農業研究所」を開所。
- 平成10年8月、新規就農者の研修施設として約5億円をかけて当敷地内に新規就農者技術習得施設を建設。
- 平成12年11月、高品質ワインの生産に向け、醸造用ぶどうの特性調査などを目的に、新たに50aの圃地を造成し植栽。

### ◆岩手県園芸試験場大迫試験地の年表

昭和24年4月	岩手県ぶどう園設置計画の候補地として、旧大迫町を指定
〃 8月	岩手県立農業試験場ぶどう栽培委託試験を開始
昭和25年4月	岩手県立農業試験場大迫葡萄試験地を創設
昭和37年4月	岩手県園芸試験場の創設に伴い、農業試験場から園芸試験場大迫圃場
昭和46年4月	岩手県園芸試験場大迫試験地として整備拡充発足
昭和55年12月	岩手県園芸試験場大迫試験地の庁舎が新築・落成
昭和63年11月	國分謙吉翁像の建立
平成9年3月	閉所

## 職員

- 葡萄が丘農業研究所 所長
- 就農技術支援員 その他必要な職員

## 業務の委託

葡萄が丘農業研究所の管理運営のため、指定する団体に業務を委託しています。

旧大迫町がぶどう栽培に適しているとの先見的判断を示し、岩手県園芸試験場大迫試験地の創設にも尽力した、当時の岩手県知事 國分謙吉氏の功績をたたえ、当時の大迫町長村田柴太氏が中心となり銅像と記念碑を建立。

現在も、春の清掃活動、秋には偲ぶ会を開催し、ぶどう生産者、ワイン会社、JA、研究所等の職員が集い、偉業を顕彰している。



【醸造用ぶどうの研究圃場】



【國分謙吉翁像】

## 業務

- 農業生産に関する試験研究及びその成果の普及
  - 生食用の有望種（中・大粒種）の地域適応性等特性調査
  - 醸造用新品種の地域適応性等特性調査
    - 友好都市オーストリア「ベルンドルフ」由来品種
    - 最高級ワイン醸造のための高品質原料生産技術
  - 環境に優しい栽培実証展示
  - 新資材等の効果的利用法
    - 新農薬の効果
    - 植物成長調整剤の効果
    - 簡易雨よけ施設、新垣根仕立て等の安定生産技術
  - 新品種の育種、クローン選抜
- 農業に関する情報の収集と提供
  - 省力安定多収技術の開発と、栽培普及の推進
  - 農家所得の安定と向上の推進
  - 地域の気象や土壌等立地条件の把握と、好適品種の産地形成
- 農業者等に対する支援及び研修
  - 新規就農者等への農作物栽培技術研修
  - ぶどう塾（ぶどう栽培の技術や知識の習得）の開催
  - 町内小学校、中学校、高校等へのぶどう栽培体験実習
  - 各種ぶどう栽培研修会の開催



【地元高校生による作業実習】



【ぶどう栽培研修会】

## 設備

- 用地
  - 面積 28,243 m<sup>2</sup>（内訳：試験研究圃場 14,593 m<sup>2</sup>、建物敷地 4,222 m<sup>2</sup>、その他 9,428 m<sup>2</sup>）
  - 建物
 

ア 新規就農者技術習得施設	1棟	836.53 m <sup>2</sup>
イ 旧庁舎	1棟	221.51 m <sup>2</sup>
ウ 選果場（休憩室含み）	1棟	173.25 m <sup>2</sup>
エ 車庫兼農機具庫	1棟	73.71 m <sup>2</sup>
- 農機具（平成30年12月現在）
  - スピードスプレーヤー 1台
  - トラクター 1台
  - 自走式運搬車 1台
  - 自走式草刈機 1台
  - 草刈払い機 2台
  - 公用車 2台



【平成29年度に整備したスピードスプレーヤー】